



人権通信

令和三年九月十六日発行 第一号
発行 城ノ内中等教育学校後期課程

高等学校人権委員会
レバラーズ

こんにちは、人権委員会です。
楽しかった城ノ内祭も終わり、少しずつ秋らしくなってきました。
さて、今年度は二年ぶりに、ひのみね支援学校との交流・共同学習が行われます。

ですが、これまで参加したことのない人にとっては、一体どのような活動なのか、わからない点も多いと思います。
そこで今回は、レバラーズの皆さんに、一昨年の交流・共同学習に参加した感想をお聞きしました。

ひのみね支援学校との交流・共同学習では、一緒に体を動かしたり、共同制作をしたりします。一昨年度は、美術作品の共同制作を一回、ボッチャを二回しました。

中でも私の心に残っているのはボッチャです。ボッチャとは、カーリングのようになるボールを一つ置き、各チーム六個ずつボールを持ち、それらのボールを的球にどれだけ近づけることができるかを競うゲームです。パラリンピックの正式種目でもあります。

最初はなかなか的球の近くにボールを投げることができませんでした。しかし、何度かやっているうちにコツをつかむことができ、チームみんなで楽しむことができました。

普段なかなかできないスポーツを通して、障がい者スポーツへの理解が今まで以上に深まりました。今後の交流にも積極的に参加して、いろいろな面でお互いに理解を深めていきたいと思っています。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、人数を制限した上で、オンラインにて実施する予定です。一昨年度のように直接顔を合わせてというわけにはいきませんが、有意義な交流・共同学習になるようにしていきたいと思っています。

さて、今回はこのほかに、六四・六五ホームルームの人権委員の皆さんに原稿を書いていただきました。

SNS上の誹謗中傷はなぜ起こるのだろうか。昨年衝撃を受けた、木村花さんのニュース。人を自殺にまで追い込むSNSの持つ恐ろしい側面を実感

させられた。SNSの特徴である、匿名性や同調する仲間を集めやすい拡散力が、過激化する誹謗中傷の背景にあるのではないかと思う。個人に対して批判的な意見を持ったとき、それに同調する者が多くいけば、自分の意見こそが正しいと思込んでしまう。そして、一度そう認識すると、ゆがんだ正義感により過度な批判を始めてしまう。しかし、その文字を打ち込む前に少し考えてほしい。相手も同じ人間であることを。それぞれが理性と節度を持ってSNSを使うよう心がければ、誹謗中傷で涙を流す人はいなくなると思う。

最近、LGBTQについての話題をよく耳にします。LGBTQとは、L(レズビアン、女性同性愛者)、G(ゲイ、男性同性愛者)、B(バイセクシュアル、両性愛者)、T(トランスジェンダー、性自認が出生時に割り当てられた性別とは異なる人)、Q(クイアやクエスチョニング※注)の頭文字をとった言葉で、性的マイノリティ(性的少数者)を表す総称のひとつとしても使われることがあります。ですが、昔と比べると理解が進んだとはいえ、まだまだ差別や偏見はなくなっていないように思います。先日、アメリカに住んでいる叔母から、男性同士の結婚式に参加した話を聞きました。同性婚が世界の多くの国で認められつつある中で、日本で認められていないのは改善すべき問題です。このような状況の中で私たちにできることは、LGBTQについて正しく知ることです。最近ではLGBTQについてのイベント等も増えていますが、こういったイベントに参加したりして、LGBTQについて考える機会を持つ。こういった一人一人の行動が社会のあり方を変えていく第一歩となるのではないのでしょうか。

※注「クイア」は規範的な性のあり方以外を包括する言葉としても使われています。「クエスチョニング」は、自らの性のあり方について、特定の枠に属さない人、わからない人等を表す言葉です。

六四・六五ホームルームの人権委員の皆さんの意見はどうでしたか？

生徒の皆さんも、この機会に人権問題について考えたり、家族と話したりしてみてください。

この人権通信が、人権について考えるきっかけになればと思います。

